



発行所
 日本聖公会 東北教区
 仙台市青葉区国分町2-13-15
 TEL 022-223-2349
 FAX 022-223-2387
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

クリスマスは光の祭典といわれて、あちこちでイルミネーションが美しく飾られ、冬の夜に輝く光は特に美しく見えます。暗く寒い夜に輝く光景は、周りが暗ければ暗いほど、明るく輝いて見えます。教会でもツリーを飾り、イルミネーションをつけ、キャンドルの火を灯し輝かせてクリスマスをお迎えします。このようにクリスマスがいつの間にか光の祭典のように祝われるようになってきたのは、深い訳があります。それは、新約聖書ヨハネによる福音書の最初に記されています。

「この命は人の光であった。光は闇の中で輝いている。闇は光に勝たなかった。(中略) その光は世に来て、すべての人を照らすのである。」(聖書 書1章4、5、9b節)

クリスマスが光の祭典になったのは、このようにイエ

クリスマス メッセージ
この命は人の光であった
 司祭 ヤコブ 林 国 秀



ス・キリストがすべての人の光として、世に来たという聖書の宣言により、イエス・キリストはすべての人を照らすことの光、そして、この光は闇の中に輝いていると宣言されています。

私たちは経験上、

り、孤独であったり、はたまた、ねたみであったり、憎しみであったり、迷いであったり、疑いであったり、人生のありとあらゆる心の痛みと苦しみを、闇という言葉で表現できると思うのです。そしてそんな私たちの心の闇にもキリストが光をもたらしてくださるということは、私たちがこの人生を闇の力に支配されることなく、闇に打ち勝つ光が私たちの心を照らしてください。そして闇の中で悲観的になることもなく、どんなにこの世が右も左も真つ暗闇であったとしても、キリストと共に生きるなら、そこに「ポツ」と明りが灯っている人生を生きることができるといいます。言に他なりません。そして、何よりもイエス・キリストとの決定的な出会いによって、自分の生きる意味を見つめ直し、そしてその道がはっきりと示されるというのが、クリスマス

「この命は人の光であった」という聖書の宣言は、すべての人々に与えられている神様からの贈り物です。そしてクリスマスは、神様からの最大の贈り物である神のみ子イエス・キリストが、私たちに与えられたという最高の良い知らせです。ユダヤのベツレヘムという村で、幼子イエスは宿にも泊まれず家畜小屋でお生まれになりました。そして、牛や羊の餌箱である飼葉おけの中に寝かされた聖書に記録されています。そんなイエス・キリストは最後には、私たちの罪を背負い、私たちの身代わりとなって、十字架につけられて殺されてしまいました。しかし、神はこのイエスを3日目に死からよみがえらされました。このキリストを信じる人々の中でキリストはよみがえり、宿られ、光となって救い主として導かれます。今年のクリスマス、多くの皆さんとご一緒に、み子イエス様をお迎えして、まことの光に照らされ、導かれて、希望を持って進んでまいりましょう。

(郡山聖ペテロ聖パウロ教会牧師)

チーム北国「宣教協働」・「広報」各セクションコラボ 「まなびの会～知っておきたい1・2・3」in 盛岡

盛岡聖公会
ガブリエラ 赤坂 祈
「教区再編」というワード

の活動の紹介があり、その後、2028年4月に北海道教区と東北教区が一つになるための、これまでの活動と今後の働きについての説明が行われました。

（広報セクション 坂水かよ）

10月20日(日) 礼拝終了後、北海道教区との協働について学ぶための会が隣接する仁王幼稚園のホールで開催されました。チーム北国広報セクションのメンバーの吉谷かおるさんと鈴木康さん(共に札幌キリスト教会信徒)を講師としてお迎えし、総勢約25名が参加しました。

最初北海道教区の歴史と札幌キリスト教会の活動の紹介があり、その後、2028年4月に北海道教区と東北教区が一つになるための、これまでの活動と今後の働きについての説明が行われました。

「教区再編」というワードを知ってはいいても、正直、普段は自分の所属している教会のことを考えてしまっています。現時点でも同じ東北教区以外の教会に思いを馳せているか、東北教区の他の教会を知っているかと聞かれると「？」な自分がいます。東北教区の教会同士がお互いのことを改めて知っていく。強み、弱み、現状、魅力などを知るといふことも必要だなと話を聞いて思いました。そうすることで、北海道教区と向き合った時に自分たちの強み弱みをアピールできると思いました。

大きな渦のような動きの「教区再編」の中には、隣り人としての教会の仲間が増えるという嬉しい想いもあり、その嬉しさや一緒になることの楽しみにチーム北国の皆さんがフォーカスしていることが何よりも希望だと感じました。

「北海道教区宣教協議会」に参加して

北海道教区宣教協議会準備グループメンバー パウリナ 中村久美子
10月14日(月)北海道教区宣教協議会が札幌キリスト教会にて開催され、北海道教区宣教協議会準備グループメンバーである渡部拓司祭と中村、そして宣教主事である村上道夫さんの3名で参加してまいりました。

北海道教区の宣教協議会は、今年と来年の2回開催を予定しており、今年は「歩き続けよ 福音の道を」聴きあうことから始めよう」をテーマに全道の教会から教役者・信徒合わせて58名の参加者が、語り合い、交流し聴き合う時間を共にしました。

当日は、朝の祈りから始まり、午前中は各教会の物語を2回のグループチェンジをして、約10名の方々の物語を聴き合うワークを行い、昼食前に笹森田鶴主教による「神のみ声に耳を傾けよう」をテーマにルカ福音書の物語からの学びの時がありました。午後8名のグループワークで聴いた物語から感じたこと、刺激を受けたこと、共感したこと等をシェアし、キーワードとなる言葉を導きだし、全体で分かち合い、夕の祈りをもって終了という流れでした。

和やかな雰囲気の中で行われた協議会を通して、それぞれの教会の歩みの道には、そこに集う人の「思い」や「願い」が込められた行動があったこと、「聴きあう」ことで生まれた気づきから「つながり」「家族」「交わり」など「つながり」との存在を感じる言葉になったことは、ここに希望があると一致した思いがあったからではないかと思えました。また、相手の心からの言葉を自分の心を通して「聴く」ということにはエネルギーと経験が必要であると改めて感じました。

東北の私たちをスタートラインに一緒に立つ仲間として温かく迎えて下さった北海道教区の皆さまへ、心からの感謝を申し上げます。



紋別聖マリア教会
北海道教区
教会紹介

1893年、網走講義所信徒の紋別への移住に始まり、定住伝道師による宣教も進むのですが、大戦の余波により苦難の道を歩み始めました。1951年伝道が再開、信徒の集会が続ぎ、1956年住宅の集会が続ぎ、1956年紋別聖マリア教会設立、紋別幼稚園開園。現在の聖堂・幼稚園は、1997年に新築落成したものです。現在の礼拝出席者は5〜6名。奏楽者がいないためパソコンで奏楽を流している。礼拝の30分前から聖歌の練習をし、重厚な調べと皆の聖歌の声が厳かに毎主日響いています。



今年韓
国に3回も
行かせてい
ただき、な
んといい
みでしょう。
5月大田主
教座聖堂聖
別式、9月

ソウル教区主教按手式、10月日韓聖公会宣教協働40周年記念大会で済州島を訪ねたわけです。大会には日本聖公会から45名、大韓聖公会から32名、プラスACC総主事とカンタベリー大主教主席補佐官らの特別参加があつて総勢80名が集まり、3泊4日のプログラムで行われました。東北からは赤坂聖矢さん(仙台)と佐藤萌萌野さん(弘前)、李贊熙司祭です。萌萌野さんはハンゲルが流暢で、青年たちのおしゃべりを楽しんで快活だったことに、未来への希望を感じました。

大会テーマは「和解」で、2日目は終日日韓の現場から声を聴き合い、分かち合いました。私は「自然との和解」の部で、原発のない世界を求めている活動報告をさせてもらい、発題後共感する人たち

に握手を求められ感激でした。参加者たちは2度オンラインで事前学習をして大会に臨んでいます。それがとても役立ちました。日韓宣教協働の歴史と済州島の2つの歴史を学んだのです。1945年8月15日以降、アメリカ軍事政府から約5年間、済州島民は虐殺と処刑の迫害を受けた歴史を私は初めて知りました。「4・3事件」と呼ばれています。3日は済州4・3平和公園に出かけ犠牲者追悼礼拝を献げ祈り、平和記念館を見学し、戦跡フィールドワークしました。私は沖繩が重なってきました、たいへん心痛み気持ちが悪くなりました。その後、昨年礼拝堂聖別式が行われた済州友情教会に隣接して建てられた「済州日韓友情の家」の祝福式が、両首座主教の朴東信^{ドンシン}主教と上原榮正^{エイセイ}主教の共同司式により挙行されたのには目に見える和解と友好のしるしです。

友情の家は宿泊施設で日本聖公会の方には2025年中無料で貸し出されます。和解と平和、風と聖霊の島を旅する際はご利用できます。申し込みは長谷川まで。(教区主教)

「秋のTEEN'S芋煮会」開催

去る10月12日(土)、仙台基督教教会聖ペテロ伝道所を会場に、青少年活動推進グループ主催で、主に10代の学生を対象とした『秋のTEEN'S芋煮会』を開催しました。仙台や、遠くは盛岡から総勢7名の学生たちが参加。一緒に近隣スーパ

「秋の思ひ舟」

仙台聖フランシス教会
大浪 咲 デイアキラナ

秋空のもと、聖ペテロ伝道所でティーンズの芋煮会がありました。始めに渡部拓司祭による開会の礼拝がありました。みんなに会う前は「どんな感じだろう」と緊張していましたが、自己紹介をして、少ししゃべってみたら、心がほぐれました。



最初は芋煮の材料の買い出しです。どんな物を入れたいのかみんなて話し合い、秋の野菜をたくさん買いました。調理も全部自分たちでやりました。まず野菜を洗ったり、いろんな形に切ったりします。私はごぼうのさがきと肉を炒める担当でした。さがきは初めてだけど挑戦してコツをつかみ、きれいに切れるようになりました。肉はいっぱいだったので、炒めるのは重くて、うでが痛くなりました。芋煮の味見係は私と姉とお友だちの3人です。おいしく食べて、ゲームもしました。新しいお友だちと交流できたので、楽しい一日になりました。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

◆水曜喫茶は10月9日に行われ、あいにくの雨により5名の参加でした。今回は山梨県の方から葡萄、都内の方からお菓子、田園調布カトリック教会からはパウンドケーキをいただきました。抹茶でいただくのはこれまた最高、感謝です。このところ全国で災害が多く、皆さん少し心配顔でした。◆年1回行っている広畑での交わり、今年は11月8日(金)、広畑お茶会2024」と題して開催です。こちらは次号にて報告いたします。

常置委員会報告 (第12回・10月16日)

報告事項▼主教報告…9月26日、エリヤ金長煥(キム・ジャンファン)師の大韓聖公会ソウル教区主教按手式に李贊熙司祭と共に参列。▼常置委員長報告…第109(定期)教区会に、常置委員会報告(第108教区会後第1回〜第11回)を提出。教区が貸し出している主教座聖堂隣接地の駐

車場改修工事が行われる(工期は10月28〜31日)。

協議事項▼諸規程の一部改正について…「教区規則」第40条第2項に「席貸業」「駐車場業」を追加。「教役者給与規程」の第6条(諸手当)項で区分していた各項をそれぞれこの条文として独立させる。また、同規程にて休職時の取扱いを新設することを承認。以上を教区会に議案として提出。「経理規程」の一部改正についても承認。▼李贊熙司祭から提出された休職願について、同師の早急な帰国が必要であることから、この休職願を受け理することを承認。▼2025年度教区一般会計収支予算案について、これを承認。

誌面の都合により、「北から南から」はお休みいたします。

12月逝去者記念聖餐式

12月4日(水) 午前10時
於 主教座聖堂
司式・説教 長谷川清純 主教

司祭 アタナシオ 笹森 伸兒
2019年12月1日逝去
宣教師 Miss Ethel H. Cornell
1920年12月5日逝去

司祭 イザヤ 櫻井 享

2010年12月6日逝去

伝道師 ヨハネ土田 八九十

1924年12月8日逝去

司祭 ヤコブ 木村 光二

1979年12月9日逝去

宣教師 Miss Anna Theodora Wall

1917年12月12日逝去

司祭 John Cary Ambler

1946年12月13日逝去

主教 テモテ 中村 信蔵

1969年12月16日逝去

司祭 Frank Hallett Jr. Moss

1963年12月19日逝去

司祭 近重 利澄

1934年12月22日逝去

司祭 コルネリオ 斎藤 雄一

2017年12月22日逝去

司祭 片田 葛五郎

1956年12月24日逝去

主教 ウイリアム 村上 達夫

2016年12月28日逝去

司祭 ステパノ 大矢 敬香

1942年12月30日逝去

司祭 ステパノ 奥村 亮

1948年12月31日逝去

司祭 ヨハネ 桜井 健

1979年12月31日逝去

